

Nami-Aru? / Internet

「No Fin, No Fan?」

文：ジョージ・カックル

最近よくサーフィン雑誌で、フィンがついていない木造のサーフボードを見かける。俺も近いうちに一本作ってみようかなと思っているんだ。

もう十何年前の話だけど、トシという友だちとサーフビデオを作るためにリュニオンという島に行ったことがあった。リュニオンはマダガスカルのあるセイシェル諸島の小さなフランスの島だ。フランスの島とハワイで一番違うのは波じゃない...、女性たちが海でもホテルのプールでもみんなトップレスなことだ。(笑)

女性の話をしているんじゃないんだよね、戻りましょう。

そのときは、世界中のサーファーたちがオックスボウの大会のためにリュニオンに来ていたんだ。そこでいろんなサーファーたちを撮影するのに、朝から晩までずっと彼らのサーフィンを見ていたんだ。きっと俺が一番感動したサーフィンは、ハービー・フレッチャーのライディングだった。彼はどんな波にのっても、すぐにノーズに行ってボードのテイルを上げて波からフィンを抜いて、波に乗っていたんだ。それに落ちない。ボードにはフィンがついているのに、毎回フィンを抜いて、サイドスリップしながら、波に乗っていたんだ。それも毎回だよ。

その後、撮影が終わって日本に戻ったら、ラッキーにも七里ヶ浜の正面に腰腹ぐらいの波があった。もちろん入ったよ。そこで一本乗ったら、何かボードがハービーのボードみたいにサイドスリップしたんだ。すごいと思って、彼のライディングを毎日見ていたから、俺の身体が頭の中のイメージ・トレーニングを自然にしていたんだと思う。

3本の波をスリップしながらきれいに乗った。でも3本目の終わりにワイプアウトして、ボードがひっくり返ったんだ。俺は何気なくフィンのほうに目をやって、驚愕したね。なんと、ボードのフィンが折れていて、俺は今までフィンなしで乗っていたのがわかったんだ。つまり、イメージ・トレーニングのおかげじゃなくて、ただフィンがなかっただけなんだ。

それから、これはいいなと思って、もう一度アウトサイドに出て、波にのったらすぐ落ちてしまった。フィンがないと思ったら、考え過ぎて乗れなくなっちゃたんだね。

サーフィンって、そういうもんだよね。